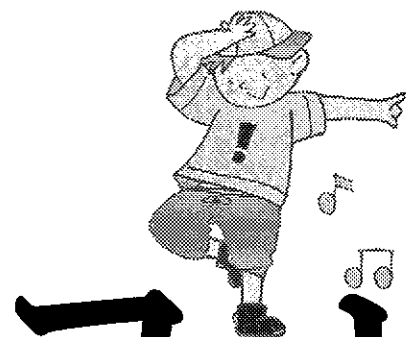


秋厚労ニュース



コロナ禍は社会分岐点

全厚労第38回 医療研究集会

11月14日(日)、全厚労第38回医療研究集会がZOOMを使って開催され、秋厚労3人を含む80人が参加しました。メインテーマは「住民とともに協同組合医療運動を復興させよう」です。



メッセージカードを掲げて記念撮影

新型コロナウイルスで医療政策の問題点が明確化

第38回集会のサブテーマは「コロナ禍を分岐点に社会のあり方を変えよう!」です。

新型コロナウイルスの感染拡大で、医療現場の人手不足、保健所の不足など、こ

学習講演 長友薫輝先生

公立・公的病院の再編成計画と地域医療



学習講演では、三重短期大学の長友薫輝先生が「公立・公的病院の再編

これまでの医療政策の問題点が明らかにになりました。運営委員会は、コロナ禍を、今後どんな社会を目指すのかを考え直す「分岐点」にしようと、集会を企画しました。

成計画と地域医療」と題して講演。

現在進められている医療・社会保障改革は、「自助、共助、公助、そして絆」

と題して講演。

住民とともに医療のあり方探る

各都道府県は、2025年の医療機能ごとの必要病床数を推計し「地域医療構想」を策定。地域医療構想調整会議にて、病床の機能分化・連携に向け協議中です(下図)。

病床数の減少は、医療機関の人員体制にも影響します。長友先生は「在宅医療・在宅介護、地域包括ケアシステム、地域経済・地域産

とした菅政権の狙いを引き継いでいます。

しかし長友先生は「社会保障は「公助」ではない」と強調。「自己責任(自助)や相互扶助(共助)だけで解決できないから、社会保障制度が作られた」と話します。

「コロナ禍で改めて、医療崩壊などの実態が明らかになった。介護・社会福祉も同じ。コロナ前に立案した計画などは、一旦立ち止まって検証、評価が必要」としました。

地域医療構想(1985年から2025年)

1985年	・地域医療圏の登場(1985年12月の医療法第1次改正) ・国立病院・療養所再編成計画(1986年1月)
2016年	・地域医療構想(すべての都道府県)の策定 ・2次医療圏を基本として、地域医療構想調整会議開催
2021年	・424公立・公的病院への再編・統合リスト公表(2019年9月) ・コロナ禍でも、地域医療構想や再編・統合の中止などの検討なし
2025年	・地域医療構想、医師偏在対策、医師働き方改革の三位一体改革 ・2025年の医療供給体制

長友先生資料より

あり方を探ろう」と呼びかけました。

4つの分科会がリレー報告

午後の冒頭には、眠気覚ましとアイスブレイクを兼ね、皆で「ヤングマン」を踊りました。その後、4つの分科会が、リレー形式で問題提起や取り組みを報告。参加した人はグループに分かれ、自己紹介や感想交流をしました。